

府道磯之上・山直線建設に伴う

西大路遺跡・今木廃寺遺跡

— 発掘調査事業報告書 —

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

1985



序 文

本協会は、昭和60年4月1日大阪府の全額出捐によって法人として設立されたもので、事業目的の一つとして関西国際新空港建設に伴う各種公共事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査事業を大阪府教育委員会の指導のもとに実施することになっております。

今回、発掘調査を実施した、西大路遺跡・今木庵寺遺跡は、岸和田市内を縦に縦断する道路として計画された大阪府道磯之上山直線建設予定地内に所在している遺跡であります。

本遺跡は、中世から弥生時代にかけての集落跡と寺跡の遺跡として知られており、昭和59年までは、大阪府教育委員会が発掘調査を実施されていた所であります。

このたび、空港関連事業として道路建設が行われることとなり本協会が発掘調査を実施することとなり、大阪府土木部岸和田土木事務所より委託を受けて昭和60年8月1日より事業を実施した。

調査の結果、牛滝川の旧河川跡、柱穴、土塙、溝等の遺構と中世の陶磁器、土師器、須恵器等の遺物を検出し、周辺地域との関連がより明確となった。

本調査を実施するにあたり大阪府土木部交通政策課、岸和田土木事務所、岸和田市教育委員会、大阪府教育委員会、その他地元関係者に多大のご協力、ご支援をいただいたことに深く謝意を表します。

昭和60年11月30日

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

理事長 黒田幸雄

例 言

- 1 本書は、大阪府道磯之上山直線建設に伴う西大路遺跡・今木庵寺遺跡の発掘調査事業報告書である。
調査報告書は、改めて作成する予定である。
- 2 調査は大阪府土木部岸和田土木事務所の委託を受けて、財團法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。
- 3 調査は、財團法人大阪府埋蔵文化財協会調査課第1班が担当し、技師久米雅雄・小山田宏一が現地調査及び執筆を分担した。
- 4 調査事業は、昭和60年8月1日に着手し11月30日に終了した。
- 5 造構番号は、調査報告書では一部変更になることがある。

目 次

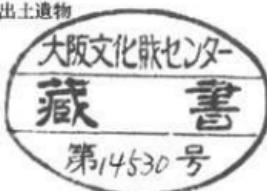
I. 調査に至る経過	1
II. 調査成果	1
A) 西大路遺跡 第1調査区	1
B) 西大路遺跡 第2調査区	7
C) 今木庵寺遺跡	8

挿 図 目 次

図1 第1調査区土層断面図	1
図2 第1遺構面	3
図3 第4遺構面	3
図4 第5遺構面	5
図5 B区遺構面	6
図6 C区遺構面	6
図7 第2調査区土層柱状図	7
図8 今木庵寺遺跡土層柱状図	8
図9 今木庵寺遺跡遺構図	9

図 版 目 次

第一図 調査位置図	第九図 包含層出土遺物
第二図 各調査区位置	1-O R出土遺物
第三図 西大路遺跡、今木庵寺遺跡調査区	第十図 A区第1・2遺構面出土遺物
第四図 西大路遺跡第2区遺構図	A区第3~6遺構面出土遺物
第五図 A区第4遺構面	第十一図 B区1-O S内出土遺物
A区第5遺構面	B区2-O S内出土遺物
第六図 B区溝遺構	第十二図 C区3-O S内出土遺物
B区1-O S	C区2-O S内出土遺物
第七図 C区溝遺構	第十三図 遺跡全景
C区3-O S	出土遺物
第八図 C区3-O S内遺物出土状況	
C区3-O S内遺物出土状況	



I. 調査に至る経過

西大路遺跡および今木庵寺遺跡は、岸和田市西大路町並びに今木町地内に所在する遺跡である。

周辺には、箕土路遺跡（縄文～歴史）、下池田遺跡、栄の池遺跡（弥生）、摩湯山古墳、久米田古墳群、小松里庵寺、田治米庵寺など各時期にわたる遺跡が存在している。

今般、昭和59年度に大阪府教育委員会が調査した、府道磯之上・山直線における西大路遺跡の試掘調査、および今木庵寺跡遺跡の発掘調査成果をふまえて、丁度、牛滝川両河岸付近の橋台部建設が予定されたので大阪府土木部岸和田木工事所の委託により、本協会が発掘調査を実施した。以下はこれら西大路遺跡第1調査区261m²、第2調査区31m²、および今木庵寺遺跡212m²にかかる発掘調査成果の事業報告書である。

II. 調査成績

A) 西大路遺跡 第1調査区

イ) 基本層序

第1調査区は、磯之上・山直線上の牛滝川左岸に位置しており、大阪府教育委員会の昭和59年度の試掘調査結果、とりわけ、現牛滝川に最も近い、第12トレンチ付近の調査成果によると、その基本層序は、「耕土、床土、灰褐色微砂質土、淡灰褐色粘質土の4層に分層でき、G. L. 一

0.45mで地山に達す

る」と報告されてい

る。また、主な遺構

としては、多数の中

世遺物（土師皿、瓦

器碗、巴文軒丸瓦な

ど）を出土する、「落

込み状遺構」や、「溝

状遺構」の存在が明

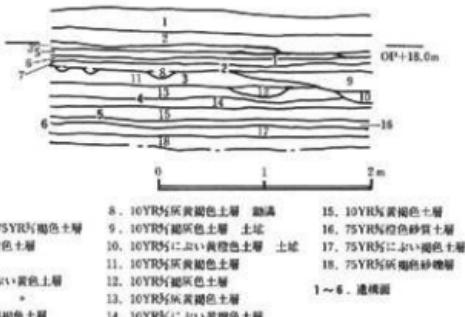


図1 第1調査区上層断面図

らかにきされているが、今回の調査成果も、ほぼその内容に合致するものである。

トレンチ位置図にも示しているように、西大路遺跡第1調査区は、便宜上、A区、B区、C区の小3区に分けて調査をすすめたが、ただ基本層序について看過できないことは、なるほど、A・C区の層序関係は、図に示した如く、試掘調査の結果通りであるが、一方上手のB区については、耕作土直下に薄い赤褐色土層があるのでのみで、その下は、すぐに明黄褐色の地山面となっている点に注意が払われる。すなわち、地形は、B区からA区にむかって大きく傾斜しており、低い方のA区で、少くとも6面の遺構が検出されている。以下、各遺構について、概略を報告することにする。

口) 遺構と遺物

〈A 区〉

○第1 遺構面

今述べたように、A区では少なくとも6面の遺構が検出される。遺構面の次数は、上述の基本層位図の数字上面に相当しているが、第1遺構面は図示したように、黄色土をきりこむ鋤跡遺構と土塙遺構（1～3～00）からなりたっている。13条の鋤跡遺構内からは、土師器片、須恵器片、瓦器片などが出土し、また土塙遺構内、1～00からはずして、土師器片、瓦器片、土師質の羽釜片、2～00からは土師器片、3～00からは土師器片、瓦片などが出土している。そのほか、この第1遺構面からは、近世の摺鉢片なども出土しており、近世鋤跡面の可能性がつよい。

○第2 遺構面

第2遺構面も同じく鋤跡面である。14条ほどの鋤溝が検出されているが、第1遺構面の場合と同様、幅10cm、深さ4cm前後をはかるものが主流である。鋤溝からは、土師器片、須恵器片、瓦器片などが出土するが、瓦器の高台などは三角高台のものも含まれるが、随分と退化した種類のものも混在しており、中世末期以降の鋤跡面の可能性が強い。

○第3 遺構面

第3遺構面も同じく、鋤跡遺構であり、鋤溝の形状、深度、方位などは、第1・2遺構面と同様である。出土遺物の内容は同じく土師器片、須恵器片、瓦器片などであるが、やはり、瓦器高台の退化したものも含まれており、14世紀の鋤跡遺構の可能性が強い。

○第4 遺構面

第4遺構面は、第3遺構面下、約20cmのところで検出される。主として2間×2間以上の掘立柱建物遺構（1～0B）、土塙遺構（1～3～00）、溝遺構などが、この面では検出

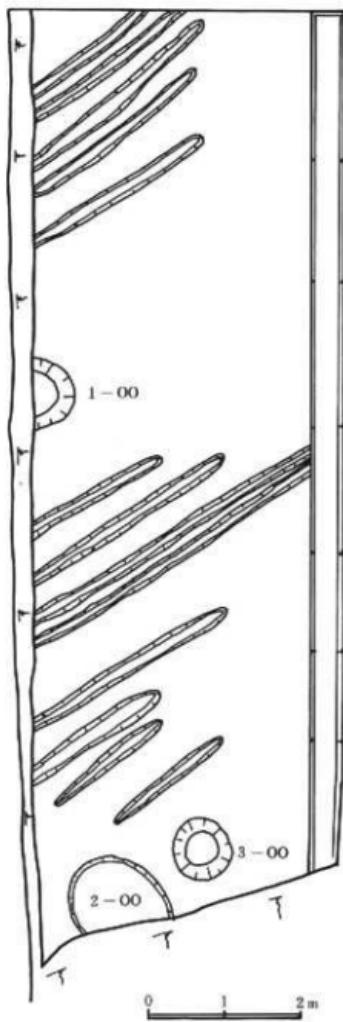


図2 第1造構面

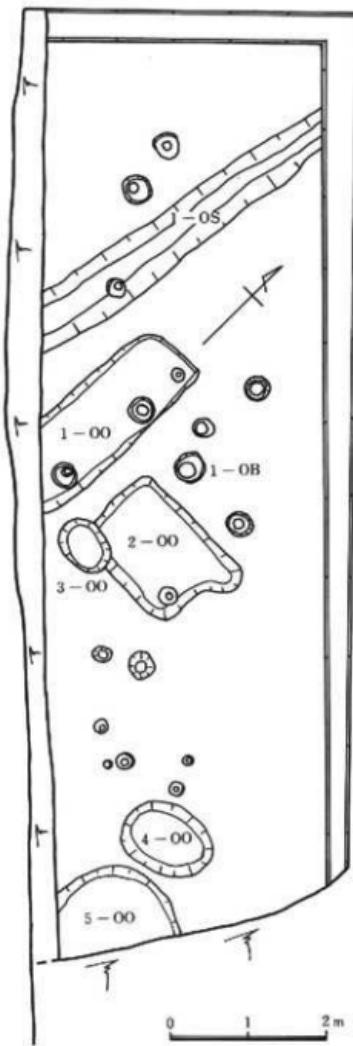


図3 第4造構面

されている。掘立柱建物については、そのピット内から土師器片、瓦器片が検出されており、また、1-OOからは、土師小皿や土師質の羽釜片、それに瓦器片、2-OOから5の土塙については、同じく土師器片や瓦器片が検出されている。他方、溝遺構1-OSからも、黒色土器A類の破片や瓦器片などが出土している。第3遺構面よりは相対的に古い、中世遺構である。

○第5遺構面

第5遺構面は、その下方、約10cmのところで検出される遺構面である。この面では図示したように、掘立柱建物を構成するピット群や、土塙遺構や鋤跡などが検出されている。ピット内からは土師器片、瓦器片が出土しており、他方、土塙遺構1-OOからは土師器片、2-OOからは、土師器片、須恵器片のほか古手の瓦器片が出土している。古代末から中世にかけての遺構面である。

○第6遺構面

第6遺構面は、今回の調査で検出された最終遺構面であり、黄褐色粘土をベースとする遺構面である。但しこの面では長径74cm、短径52cm、深さ10cmほどの土塙遺構が1基検出されただけである。なお、土塙内からの出土遺物はなかったが、遺構面直上で土師器片や、7世紀代の壺身破片などが検出された。

当初、この面が地山かと考えられたが、確認のため、この層を掘削してみたところ、この黄褐色粘土の厚さは、A区付近では約20cmほどの厚さしかなく、その下は須恵器片や、土師器片（布留式土器）、弥生式土器などを含む砂礫層であることが判明した。後程のベノト調査の結果を追記すると、G、L.から約20m近く下層までは、砂礫層、腐食土、粘土層、砂礫層の互層であることが判明している。

〈B 区〉

B区では、基本層序の項でもふれたように、耕作土および赤褐色土層を除去すると、地山面が露呈する。この面で検出された主な遺構は、溝状遺構1・2・3-OSおよび土塙遺構1-OOである。

1-OSは、幅30~115cm、深さ16cmをはかり、土師質および瓦質の羽釜、陶器、瓦器塊、瓦器小皿などを出土する。一部に庄内式の壺や弥生時代中期の壺破片などを出土するが、これらは混入遺物である。

2-OSは、幅50cm前後、深さ10cm前後の溝状遺構であるが、14世紀代の土師羽釜や土師塊、高台の退化した瓦器塊などを出土する。1-OSと途中で合流して、機能している

溝である。他方、3-O-Sは、これら2本の溝造構をきりながら、端部で、3本の小溝に分流していくかたちでの溝造構である。若干の土師器片が検出されている。

なお、土塙造構1-O-Oは、長径240cm、短径30cm、深さ10cmを測り、内面に青海波文のある須恵器甕が出土している。

以上のことから、B区は、古代から中世にかけての造構面であることが判明する。

〈C 区〉

C区では、中世遺物を大量に含む、溝状造構が検出されている。

1~3-O-Sの溝状造構は、互いにきりあい関係を有しているが、断面観察によると、それらのうち幅107~200cm、深さ48cm前後をはかる3-O-Sが最も新しい溝状造構と考えられる。

出土遺物としては、この3-O-Sから、巴文軒丸瓦、土師質の羽釜、皿、瓶、瓦器塊などが大量に出土しており、また2-O-Sからは、加えて、白磁片、瓦器小皿、須恵器片などが検出されている。全般的に14世紀代の遺物が顕著である。

他方、1·4·5-O-Sは出土遺物が僅少であるが、4-O-Sからは、須恵器片や土師質の羽釜、5-O-Sから

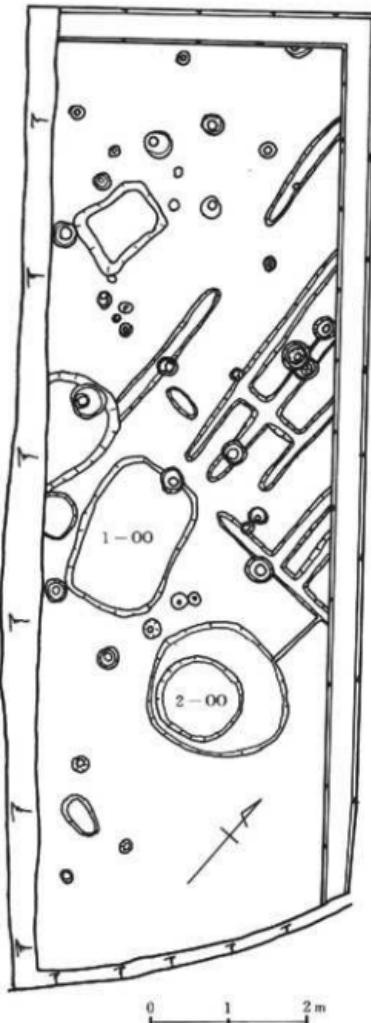


図4 第5造構面

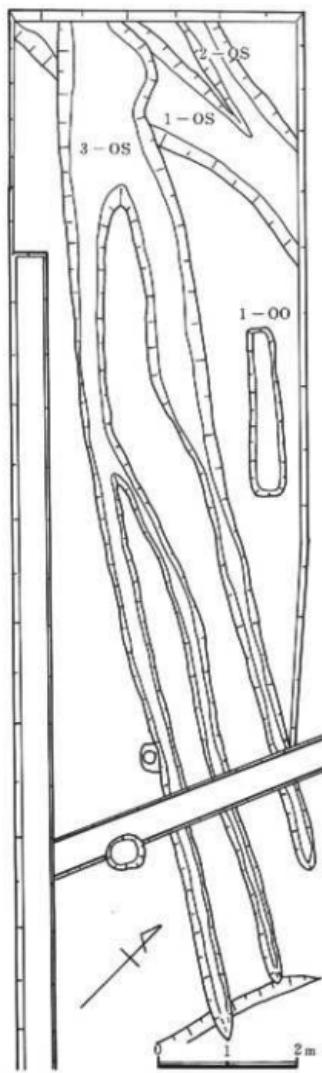


図5 B区造構面

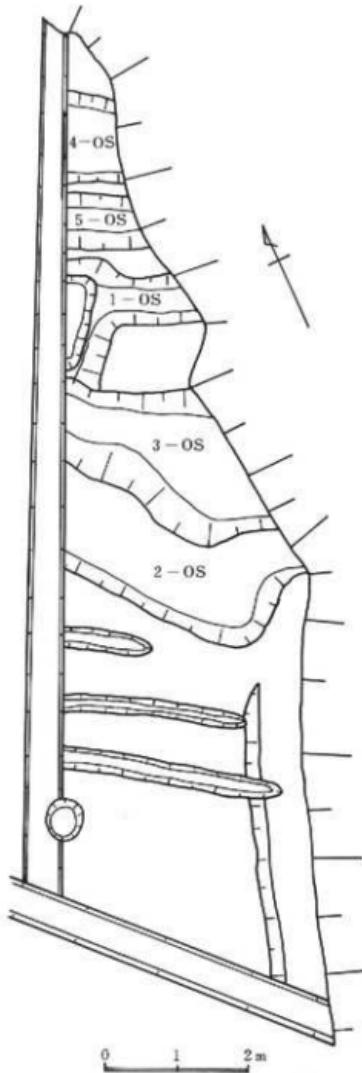


図6 C区造構面

は瓦器塊や土師質の羽釜、瓦などが出土している。このように、C区では中世の溝状遺構が検出された主な遺構である。

なお、A、B、C区全般にわたって流れ河川遺構 1-O RIは、主として近世陶磁器片、摺鉢片を出土する近世的色彩の濃厚な河川遺構であり、北壁断面で、矢板付近を3m程 (T.P.14.10 cm近くまで) ほど下げてみたが、河川底はついに確認できなかつたことを付記しておく。以上が第1調査区の概要である。

B) 西大路遺跡 第2調査区

本調査区は第1調査区の西約20mに位置し、道路中央杭で表示するとNo.162~No.163の南辺擁壁部に当る。平面形はL字形を呈し、延長約21m、面積約30m²を測る。

盛土を除去すると、部分的には調査区の西侧に第3層灰色粘土を主体とする土坡内堆積層が認められるが、基本的には河川内堆積層に入る。

第4層から第7層までが該当する。河川深度はG.L.-1.5m以上を測るが、河床は調査区が狭長なため未確認に終った。遺物は第5層灰黄色細砂に偏在する傾向にあり、主に弥生第V様式壺、広口壺、庄内式高杯等の破片が認められる。摩耗は顕著ではなく、遺物の時期が走流時期を決定すると想定される。時期的な整合関係には多少の疑問が残るが、位置関係から第1調査区A区の河川堆積に共通する蓋然性が高い点指摘できる。他の遺構としては、調査区の東端に旧地形の落ち込み01-O Xが検出されている。落ち込みの堆積層より15・16Cに主体を置く陶器、羽釜等が出土しており、当該期に地形修正が実施され現実に至っている状況が判明した。

なお、旧地形の落ちに併走し01-O Sが検出されている。



図7 西大路遺跡第2区土層柱状図

C) 今木庵寺遺跡

イ) 調査位置

本遺跡は牛滝川を狭んで西大路遺跡の対岸に位置する。昭和59年度大阪府教育委員会による本遺跡調査の残存地区で、牛滝川右岸の自然堤防上に当る。道路中央杭で表示するとNo.186～No.186+10付近で調査面積は約212m²を測る。

ロ) 基本層序

盛土を除去すると、黄褐色砂層、褐灰色礫層となり、青灰色粘土に達する。上記の砂礫層は旧牛滝川の堆積層に相当し、青灰色粘土が河床に当る。深度は平均G. L. -2mを測り河床はT. P. 15.6mの数値を測る。遺物は第2層黄褐色砂層より主に検出されており、近世の陶器、磁器、瓦を主体とする。僅かではあるが古墳時代後期の須恵器、14C初頭の瓦器碗等も出土している。従って走流時期は前者の近世遺物により決定される蓋然性が高い。河床は流水により凹凸が著しいが、走流前の小溝が検出されている。01-O S～10-O Sが当る。例え

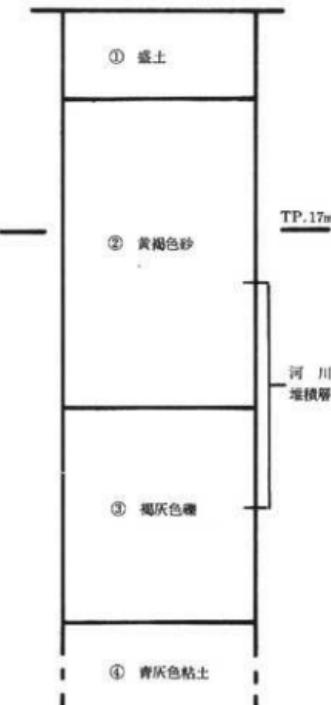


図8 今木庵寺遺跡土層柱状図

ば、02-O Sは現在長7m、深度平均40cm、断面U字形を呈するもので、比較的安定している部類に属する。上記の小溝群は河川堆積前の当該地の土地利用の姿を示すもので、具体的には牛滝川が氾濫し当該地を走行する前段階の状況を示すものと理解できる。

昭和59年度の大坂府教育委員会による本遺跡の調査に拠ると、本調査区の東方約60m付近に中世紀の牛滝川が検出されているので、牛滝川の走行位置は時代を追って西方に移動し、現牛滝川の位置におさまったと理解できる。本調査では、その近世期での一過程を確認したことになる。

以上が、磯之上・山直線にかかる西大路遺跡、今木廐寺遺跡の調査概要である。

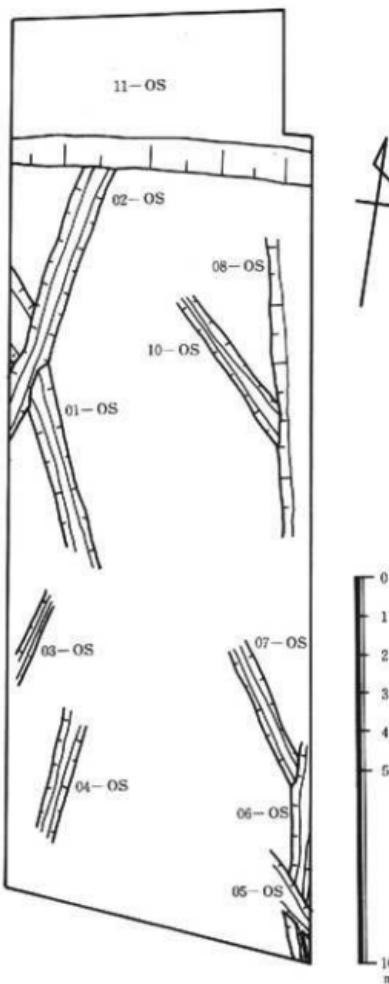
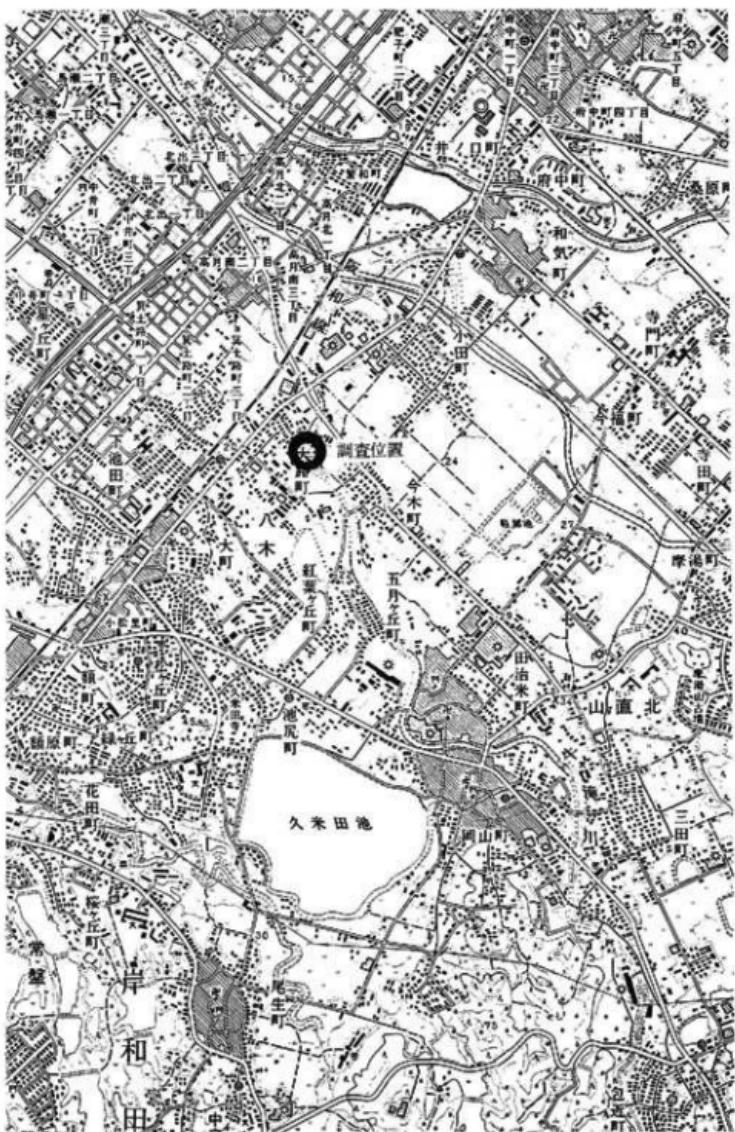
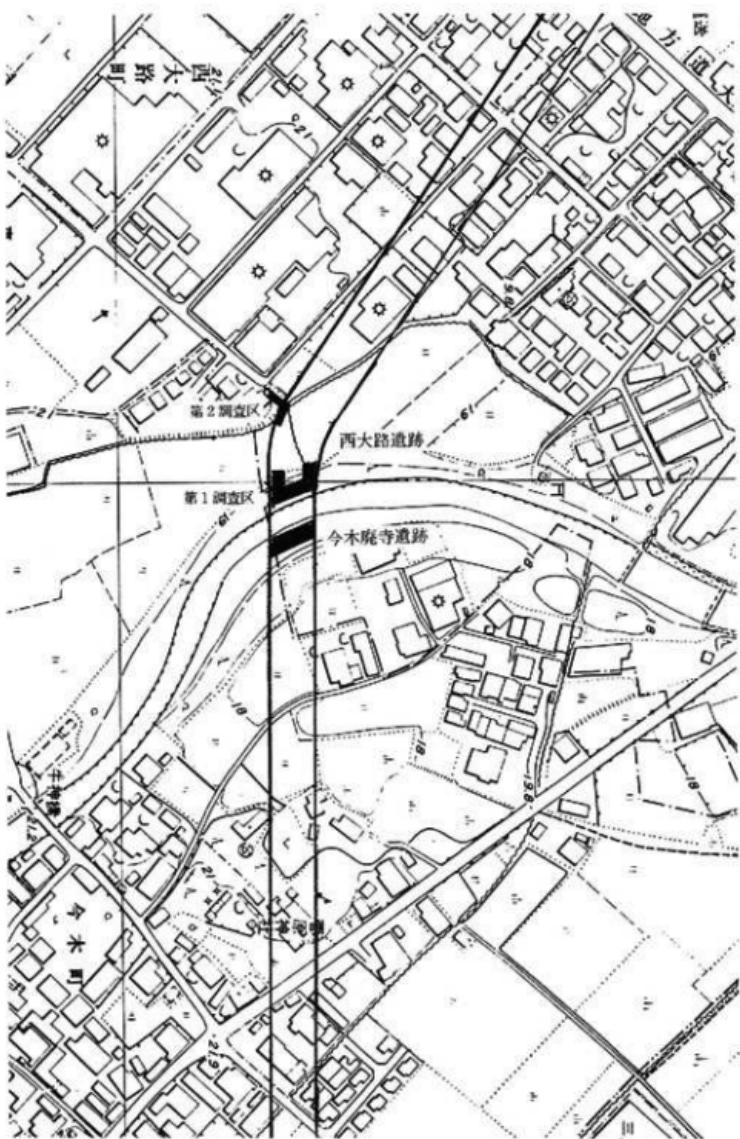


図9 今木廐寺遺跡遺構図

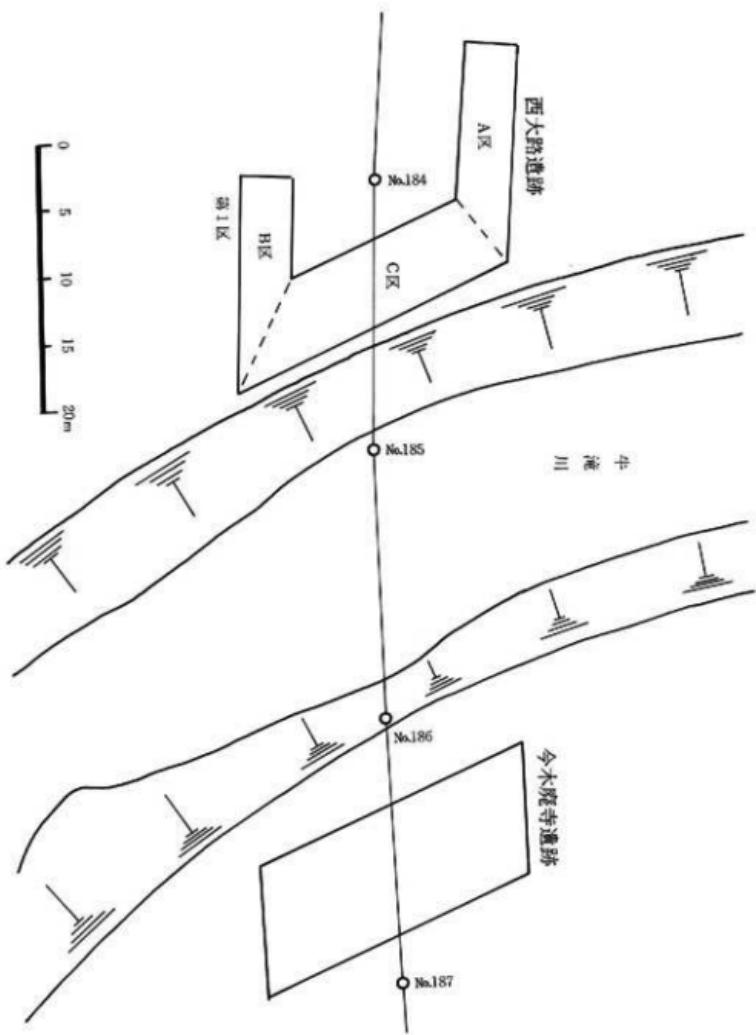
図 版



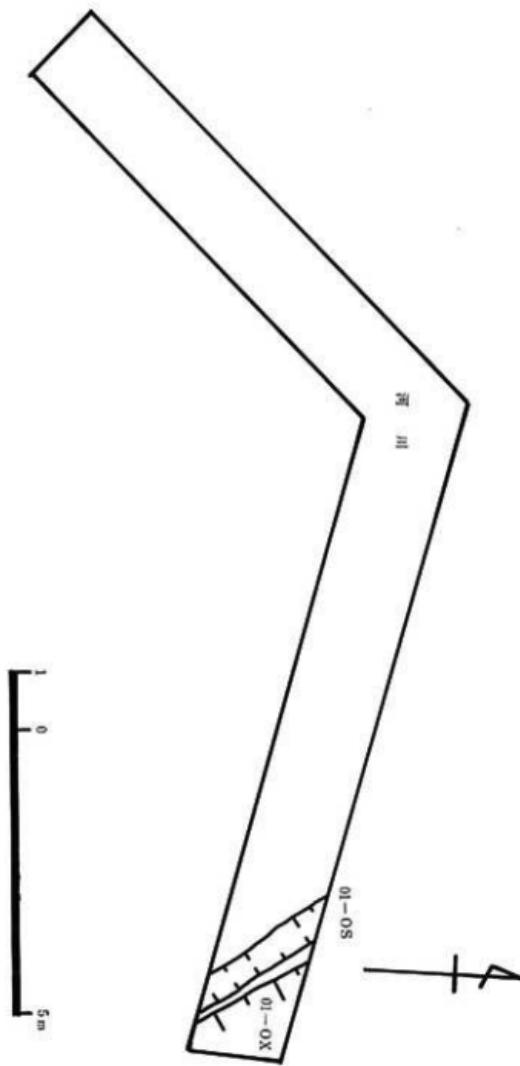
調査位置図 (S=1/25000)



各調査区位置 (S=1/25000)



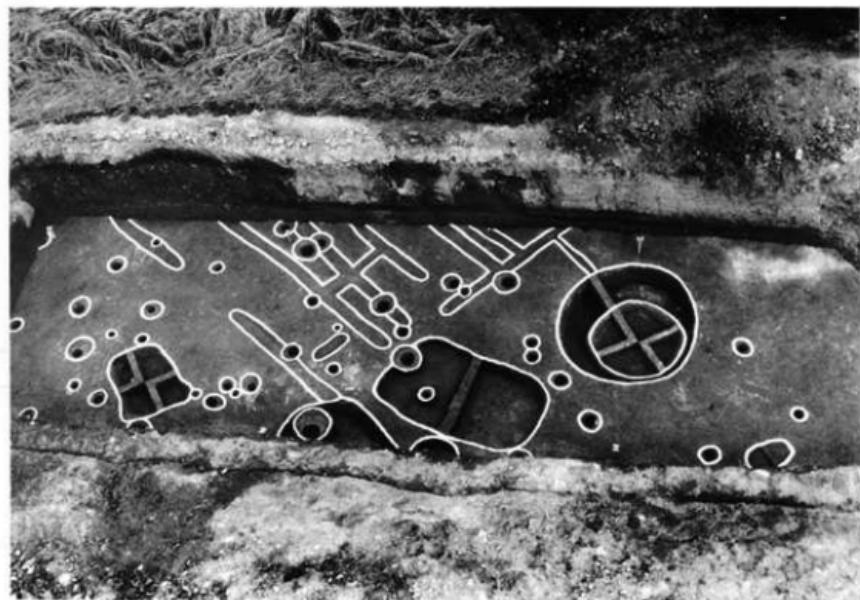
西大路遺跡・今木庵寺遺跡調査区



西大路遺跡第2区造構図

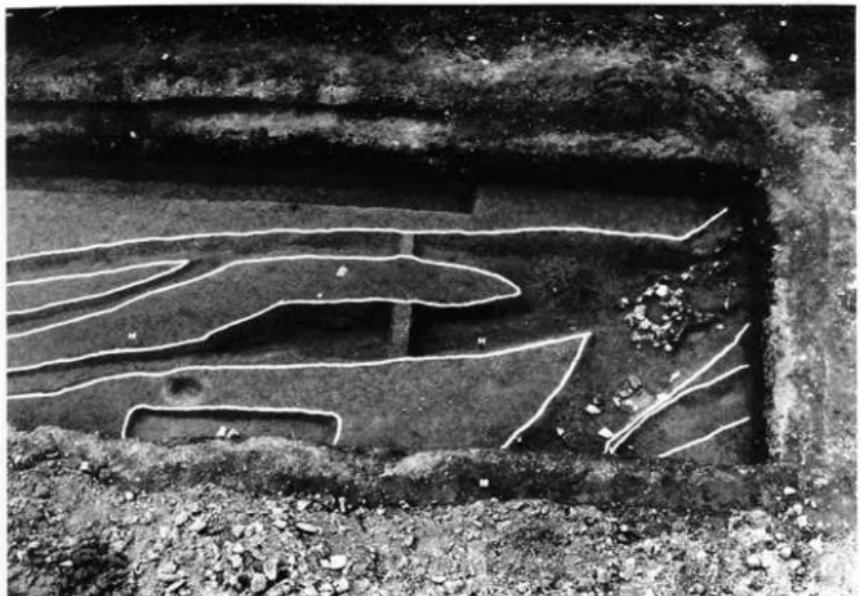


A区 第4遺構面



A区 第5遺構面

圖版第六圖 西大路遺跡



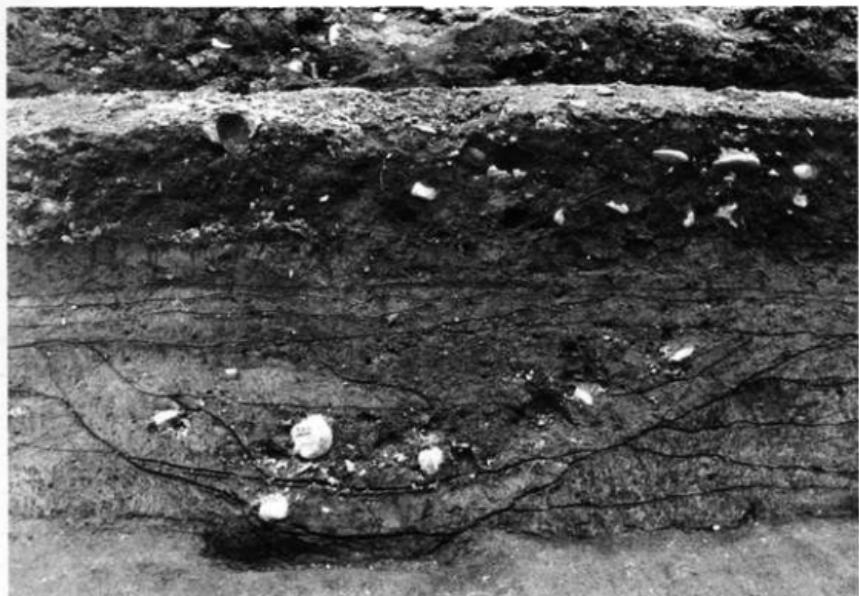
B区 溝造構



B区 1-OS



C區 溝造構



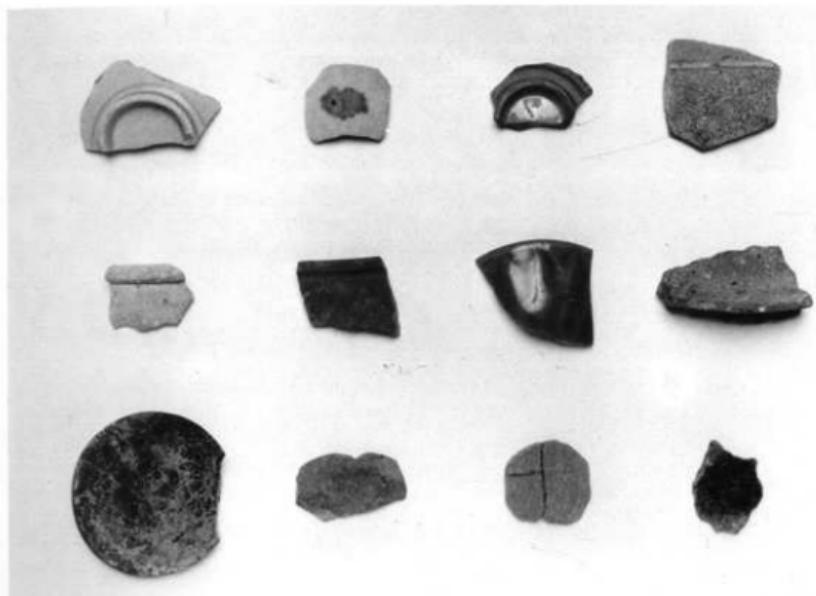
C區 3-OS



C区 3-OS内遺物出土状況



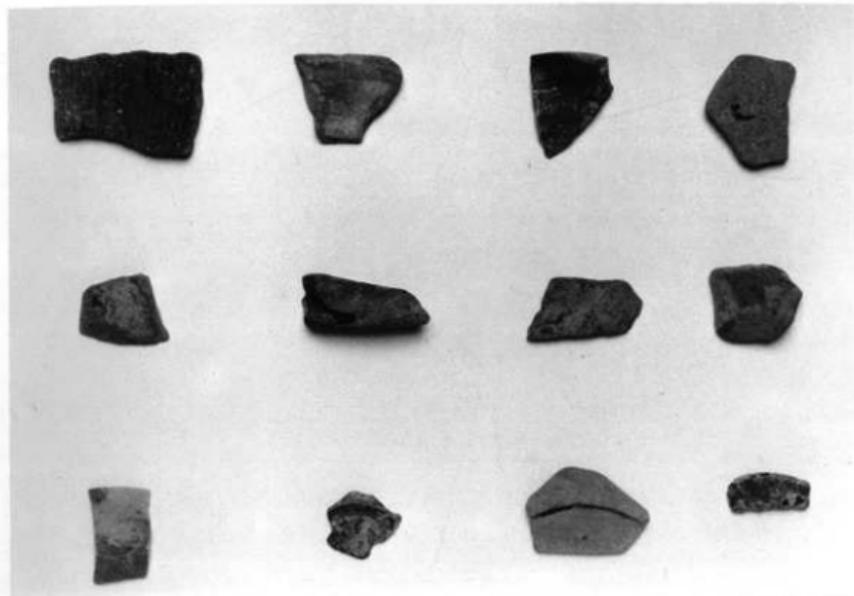
C区 3-OS内遺物出土状況



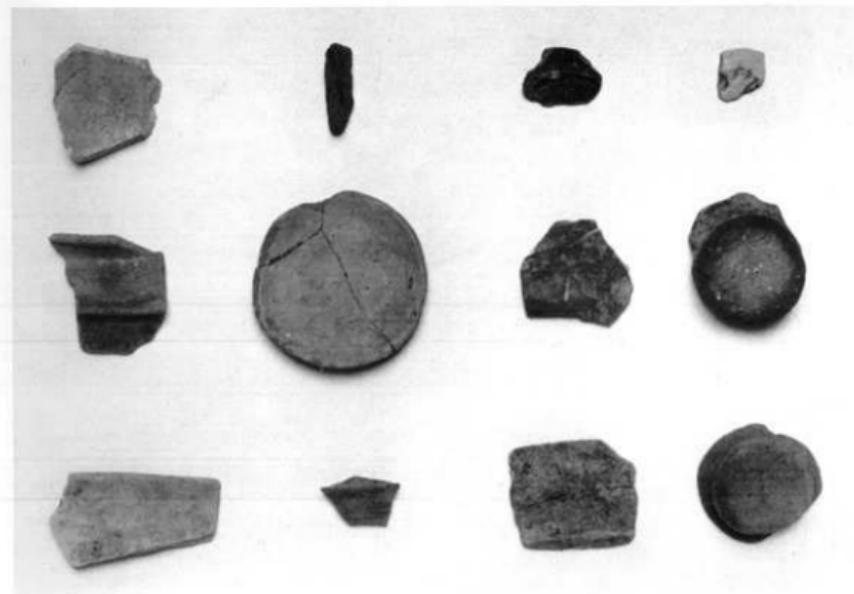
包含層出土遺物



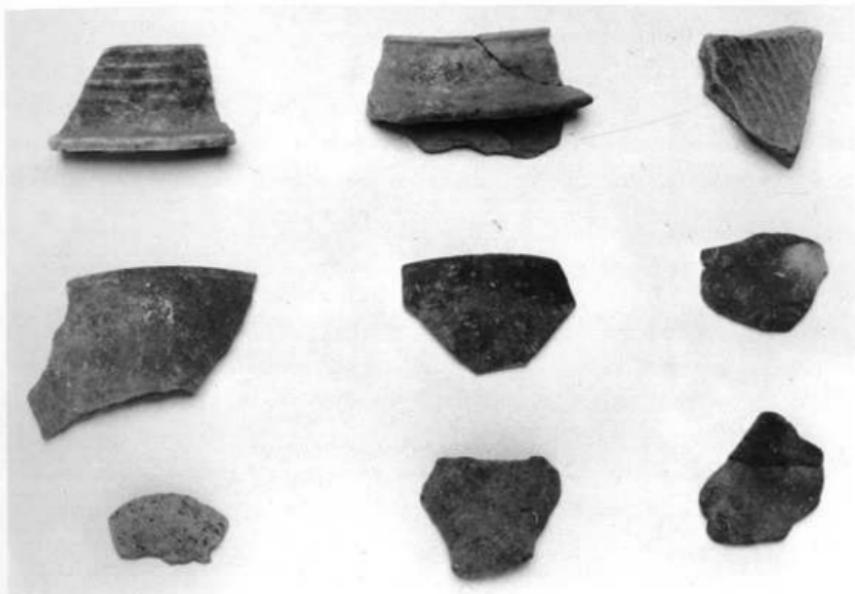
1-OR出土遺物



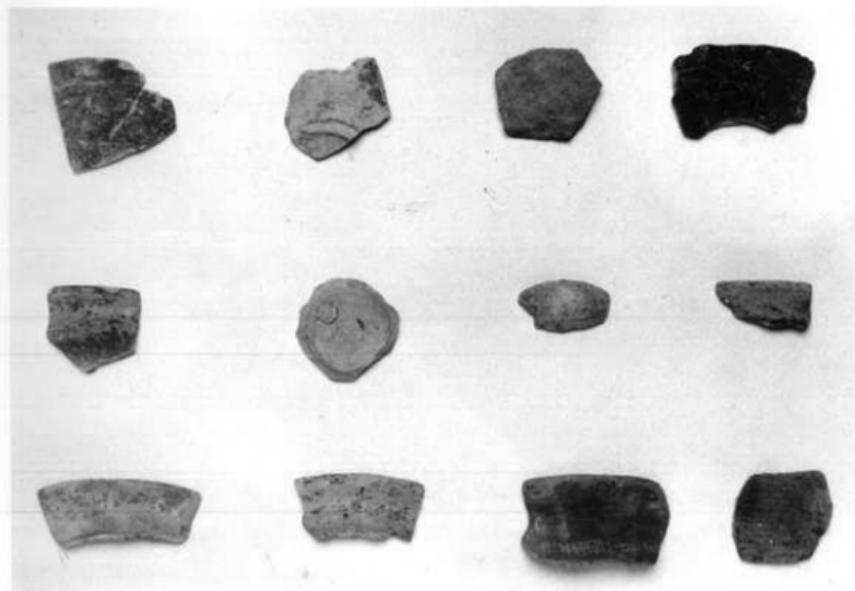
A区 第1、2造構面出土遺物



A区 第3～6造構面出土遺物



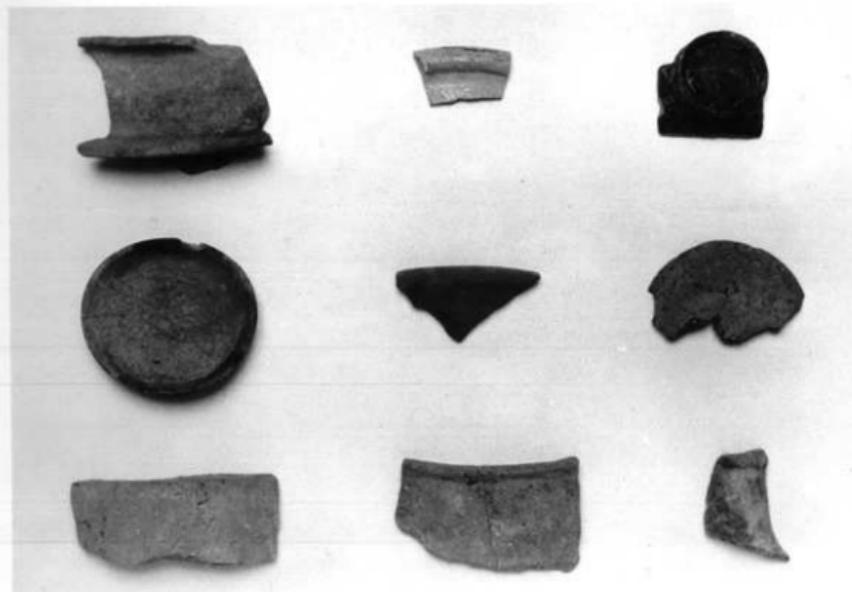
B區 1—OS內出土遺物



B區 2—OS他內出土遺物



C区 3-OS内出土遺物



C区 2-OS他内出土遺物



遺跡全景



出土遺物

